

200827002B

厚生労働科学研究費補助金  
障害保健福祉総合研究事業

高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援に  
おける人材育成に関する研究

平成18～20年度 総合研究報告書

研究代表者 江藤 文夫  
平成21(2009)年 4月

厚生労働科学研究費補助金  
障害保健福祉総合研究事業

高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援に  
おける人材育成に関する研究

平成18～20年度 総合研究報告書

研究代表者 江藤 文夫  
平成21（2009）年 4月

## 目 次

### I. 総括研究報告

- 高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援における人材育成に関する研究----- 1  
江藤 文夫

### II. 分担研究報告

1. 高次脳機能障害者支援体制の整備のための教材作成と普及啓発方法に関する研究--10  
中島 八十一
2. 研修会プログラム作成、運営・指導に関する研究 -----14  
深津 玲子
3. 高次脳機能障害者の社会復帰・生活・介護支援に資する人材育成に関する研究 -- 18  
寺島 彰
4. 高次脳機能障害者の社会復帰・生活・介護支援に資する人材育成に関する研究 -- 21  
藤井 俊勝

### III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 24

### IV. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 29

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

総合研究報告書

高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援における人材育成に関する研究  
研究代表者 江藤 文夫 国立障害者リハビリテーションセンター更生訓練所長

研究要旨

高次脳機能障害者に対し、医療から就労まで連携した支援体制を築くために、高次脳機能障害について専門的な知識と技能を有する人材を育成することを目的とし、研修教材およびプログラムを作成するとともに、情報媒体の整備や研修会等の企画を試みた。最終年度は、受講者の要望や制度の改定等を反映し、育成方法の改善を行った。

分担研究者

中島 八一

国立障害者リハビリテーションセンター  
研究所

感覚機能系障害研究部長

深津 玲子

国立障害者リハビリテーションセンター  
病院

医療相談開発部長

寺島 彰

浦和大学総合福祉学部教授

藤井 俊勝

東北大学大学院医学系研究科 准教授

病院等と国立障害者リハビリテーションセンターが参加して実施され、高次脳機能障害の医療・福祉に関わる専門家の理解を深め、国民一般の関心を喚起することに寄与し、モデル事業の成果として一定の評価が得られた。その後、障害者自立支援法が施行され、高次脳機能障害者のための医療、福祉、就労支援体制の整備は、一般施策化への段階を迎えた。すなわち、地域生活支援事業において高次脳機能障害支援普及事業が位置づけられる。

しかし、リハビリの各場面において、サービス提供に資する人材は極めて不足し、普及事業に関連して、この領域での人材養成が急務と考えられる。そこで本研究では、高次脳機能障害者の地域にお

A. 研究目的

平成13年度より5年間、高次脳機能障害支援モデル事業が全国12か所の地方拠点



ける自立生活・就労を支援する体制を整備するための人材育成を目的として、医療関連職、支援コーディネーター等専門職のための研修会を実施するとともに、教材を開発し、それらの効果を検証した。

## B. 研究方法

- ①全国の地域ブロック、都道府県、および市町村における医療・福祉専門職・行政職等を対象とした高次脳機能障害者支援研修会・講習会等の開催に応じ、教材を作成し、配布した。また、障害者自立支援法の概要と施行後の変更点、および高次脳機能障害者支援の位置づけについて質問の多い点を整理し教材を改訂した。
- ②英米の高次脳機能障害者支援システムについて情報収集を行い、それらの成果をまとめた。
- ③高次脳機能障害者支援に携わる専門職および支援コーディネーターを対象に、同障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」の基礎講義および相談頻度の高い生活・就労支援の事例について検討会を催し、検討内容、形式、要望についてアンケート調査を行った。また、結果を次の企画に反映させた。
- ④高次脳機能障害者支援に関する情報を掲載するウェブサイトを設置し、運営を

開始した。

## C. 研究結果

### ①教材について

平成18年度に作成した教材である高次脳機能障害者支援の手引きを平成20年度に改訂した。改訂版では障害者ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの位置づけ、障害者ケアマネジメント、障害者自立支援法におけるケアマネジメントのプロセス、地域生活支援事業、市町村・都道府県の役割について、地域生活支援事業における相談支援事業、自立支援法施行後の支援等を網羅した。

教材（高次脳機能障害者支援の手引き）を配布した研修会・講習会件数、部数を下記に示す。配布状況詳細は添付資料を参照。

### 外部研修会実施件数と手引き配布部数

平成18年度	37件	3,659部
平成19年度	77件	9,350部
平成20年度	66件	7,979部
合計	180件	20,988部

### ②英米のシステムについて

英国の支援システムでは、既存の職種によるチームをコーディネートし、個別ニーズに対応したケースマネジメントを行

う人材が必要とされるが、未だ専門職としての体系的養成システムは発展段階にあり、教材とワークショップ形式の研修会を通じての養成活動が有効と考えた。

(詳細は平成20年度報告書添付資料参照)

### ③研修会について

高次脳機能障害者支援に携わる専門職および支援コーディネーターを対象に、基礎講義および事例検討会を催した。各回のテーマと、参加者数を下記に示す。

(開催要項の詳細は添付資料参照)

ワークショップ開催日時・テーマ・参加人数

---

第1回 平成19年 3月10日	
記憶障害へのアプローチ	40名
第2回 平成19年 7月 7日	
注意障害へのアプローチ	150名
第3回 平成19年11月10日	
遂行機能障害へのアプローチ	130名
第4回 平成20年 3月 1日	
社会的行動障害へのアプローチ	140名
第1回 平成20年 7月 5日	
支援コーディネーター研修会	102名
第2回 平成21年 2月21日	
支援コーディネーター研修会	68名

---

### ④情報提供について

平成18年度に高次脳機能障害支援普及事業に関する情報を掲載するウェブサイトを開設した。内容を下記に示す。

1. 高次脳機能障害診断基準
  2. 高次脳機能障害者支援の手引き
  3. 全国連絡協議会のお知らせ
  4. 高次脳機能障害者支援のためのワークショップ
  5. 高次脳機能障害者支援拠点機関一覧
- さらに、平成18年末にアクセスカウンターを追加設置した。アクセス数は約3ヶ月間で32,495件であった(平成21年3月現在)。

[http://www.rehab.go.jp/ri/brain\\_fukyu/index.shtml](http://www.rehab.go.jp/ri/brain_fukyu/index.shtml)

### D. 考察・結論

本研究では以下の課題を行った。

- ① 教材(高次脳機能障害者支援の手引き)の開発および配布
- ② 海外における高次脳機能障害支援システムの視察と導入
- ③ 専門職および支援コーディネーターのための研修会
- ④ ウェブサイトによる情報提供

本研究では、英米の地域ケアシステムを参考にしながら、専門職向けの教材開発および研修会を試行し、高次脳機能障害に関

する専門知識と技能をもつ人材を育成した。受講者が各自治体や関係機関において教材を用いながら高次脳機能障害の研修会を開くという流れが広がり、支援体制の普及整備に寄与したと考えられる。高次脳機能障害支援拠点機関は、支援普及事業開始前の13都道府県から41都道府県54ヶ所に増加した。こうした人材の体系的養成システムは国際的にも未成熟であり例がない。

## F. 研究発表

### 論文等

- Chiba Y, Yamaguchi A, Eto F: Assessment of sensory neglect: A study using moving images. *Neuropsychol Rehabil.* 2006;16(6):641-52.
- 江藤文夫: リハビリテーションのあり方と新体系. *病院* 2006; 12: 970-974.
- 中島八十一: 認知症と高次脳機能障害 *Clinical Neuroscience* 25 (2) 220-221, 2007
- 中島八十一: 高次脳機能障害への支援 地域リハビリテーション 2 (1) 21-24, 2007
- 中島八十一: 高次脳機能障害診断基準 *Japanese Journal of Rehabilitation Medicine* 44 (10) 565-568, 2007
- 中島八十一: 高次脳機能障害支援のこれまでと今後 *脳神経外科ジャーナル* 16 (12) 936-942, 2007
- 中島八十一: 高次脳機能障害と医療・福祉 *日本医事新報* No.4365 53-59, 2007
- 今橋久美子, 中島八十一: モデル事業で高次脳機能障害へのアプローチはこう変わる. *臨床リハ* 16 (1) 10-16, 2007
- Abe N, Suzuki M, Mori E, Itoh M, Fujii T. Deceiving others: distinct neural responses of the prefrontal cortex and amygdala in simple fabrication and deception with social interactions. *Journal of Cognitive Neuroscience* 2007; 19: 287-295.
- Okuda J, Fujii T, Ohtake H, Tsukiura T, Yamadori A, Frith CD, Burgess PW. Differential involvement of regions of rostral prefrontal cortex (Brodmann area 10) in time- and event-based prospective memory. *International Journal of Psychophysiology* 2007; 64: 233-246.
- Sekiguchi H, Takeuchi S, Kadota

- H, Kohno Y, Nakajima Y Evoked brain potentials were changed by coil orientation of transcranial magnetic stimulation, *Clinical Neurophysiology*, Volume 119, Issue 6, (2008) e77
- 中島八十一 高次脳機能障害支援の現状と問題点. 国リハ研紀 28 : 1-8, 2008
  - 深津玲子, 高次脳機能障害. *Pharma Medica*, 2008. 26(11): p. 21-24.
  - 深津玲子, 脳炎と脳症. *神経内科*, 2008. 68(Suppl. 5): p. 142-146.
  - 深津玲子, 特集: 高次脳機能障害の現状; 医療の側面から(1). *リハビリテーション*, 2008. 503(5月号): p. p.18-22.
  - 深津玲子, 特集: 高次脳機能障害の現状; 医療の側面から(2). *リハビリテーション*, 2008. 504(6月号): p. p.22-27.
  - 深津玲子, 藤井俊勝, 遂行機能障害の画像診断. *Journal of Clinical Rehabilitation*, 2008. 17: p. 26-31.
  - Abe N, Okuda J, Suzuki M, Sasaki H, Matsuda T, Mori E, Tsukada M, Fujii T. Neural correlates of true memory, false memory, and deception. *Cerebral Cortex* 2008; 18: 2811-2819.
  - Kikuchi H, Fujii T, Abe N, Suzuki M, Takagi M, Mugikura S, Takahashi S, Mori E. Memory repression: brain mechanisms underlying dissociative amnesia. *Journal of Cognitive Neuroscience* (in press).
  - 菊池大一, 藤井俊勝: 記憶障害一概論. *神経内科* 2008; 68 Suppl. 5: 484-493.
  - 鈴木麻希, 藤井俊勝: fMRI. *神経内科* 2008; 68 Suppl. 5: 37-44.
- 書籍等
- 中島 八十一/寺島 彰(編) 高次脳機能障害ハンドブックー診断・評価から自立支援まで 医学書院 東京 2006年
  - 深津玲子 第4章 神経心理学的検査. 中島八十一/寺島彰 高次脳機能障害ハンドブックー診断・評価から自立支援まで 医学書院 東京 2006年
  - 高次脳機能障害支援コーディネーターマニュアル 高次脳機能障害支援コーディネーター研究会 中央法規出版 東京 2006年



- ・ 餅田亜希子、中島八十一：失語症と高次脳機能障害に対する社会支援体制、鹿島晴雄、大東祥孝、種村純編「よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション」615-621、永井書店、大阪、2008.7月
  - ・ 中島八十一：中枢神経（脳の解剖）20-21、麻痺－中枢神経麻痺、末梢神経麻痺124-127、筋緊張異常、異常姿勢反射、不随意運動131-133、岩谷力他編「運動器リハビリテーションクルズ」南江堂、東京、2008.8月
  - ・ Y. Nakajima Rehabilitation Manual 19, Guide to Support for Persons with Higher Brain Dysfunction I, Editor T. Ushiyama, National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities. Japan (WHO Collaborating Centre), December, 2006 (刊行2008年)
  - ・ 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部、国立障害者リハビリテーションセンター：第3章 高次脳機能障害標準的社会復帰・生活・介護支援プログラム、高次脳機能障害者支援の手引き（改訂第2版），p60-63，2008.
  - ・ Fujii T. The basal forebrain and episodic memory. In: Huston JP (ed): Handbook of Behavioral Neuroscience, Vol 18, Handbook of Episodic Memory, Dere E, Easton A, Nadel L, Huston JP (eds). Elsevier, The Netherlands, 2008, pp. 343-362.
  - ・ Fujii T, Suzuki M. Episodic memory. In The Encyclopedia of Neuroscience. Springer-Verlag, NewYork, (in press)
- 講演等
- ・ 中島八十一「高次脳機能障害者支援のための診断・評価について」岩手高次脳機能障害研究会 平成19年5月24日 盛岡
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害診断基準」日本リハビリテーション医学会学術総会 平成19年6月7日 神戸
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害の診断と治療」京都府高次脳機能障害支援医療関係者研修会 平成19年7月13日 京都
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害支援普及事業の現在」高次脳機能障害支援普及事業九州・沖縄ブロック連絡

- 協議会 平成19年7月20日 福岡
- ・ 中島八十一 「高次脳機能障害の診断基準ガイドラインについて」静岡県高次脳機能障害相談支援従事者専門研修会 平成19年9月22日 静岡
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害者の支援について」宮崎県第2回高次脳機能障害研修会 平成19年10月22日 宮崎
  - ・ 中島八十一 「相談支援に必要な高次脳機能障害の医学的知識について」鳥取県医療社会事業協会研修会 平成19年10月28日 倉吉
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害診断基準および連続したケアの必要性について」福岡県高次脳機能障害支援事業 医師等医療関係者研修会 平成19年10月31日 福岡
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害支援モデル事業から支援普及事業へ」平成19年度大阪府高次脳機能障害支援普及事業市町村保健所職員研修会 平成19年11月7日 大阪
  - ・ 中島八十一 「高次脳障害支援のこれまでとこれから」長野県高次脳機能障害研修会 平成19年11月10日 佐久
  - ・ 中島八十一 「高次脳障害者への支援：医療から福祉へ連続したケア」第7回鹿児島高次脳機能障害研修会 平成19年12月2日 鹿児島
  - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害診断基準および連続したケアの必要性について」第1回茨城高次脳機能障害SW.Net講演会 平成19年12月9日 茨城・阿見
  - ・ 深津玲子. 外傷性脳損傷のリハビリテーション. 平成19年度リハビリテーション心理職研修会(基礎). 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-05-23.
  - ・ 深津玲子. 認知障害に対する神経心理学的検査. 平成19年度高次脳機能障害支援事業関連職員研修会. 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-07-05.
  - ・ 深津玲子. 画像と神経心理学. 平成19年度リハビリテーション心理職研修会(応用). 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-09-11.
  - ・ 深津玲子. 目に見えない障害とともに生きる-高次脳機能障害・失語症について-. 東邦大学医学部看護学科 第6回市民公開講座. 東邦大学医療センター大森病院, 東京, 2007-09-29.
  - ・ 深津玲子. 高次脳機能障害とリハビ

- リテーション。第一回 福井県高次脳機能障害者交流会。福井県立病院，福井，2007-10-13.
- ・ 深津玲子。高次脳機能障害の評価。平成19年第2回 高次脳機能障害支援従事者研修。新潟県精神保健福祉センター，新潟，2007-12-21.
  - ・ 寺島 彰。生活復帰・介護支援の実際－ケアマネジメントを中心に－。平成19年度高次脳機能障害支援事業関連職員研修会。国立身体障害者リハビリテーションセンター，所沢，2007-07-06.
  - ・ 寺島 彰：高次脳機能障害者の生活支援－ケアマネジメントを中心に－。高次機能障害者支援のためのワークショップ 第3回 －遂行機能障害へのアプローチ，東京，2007-11-10.
  - ・ 藤井俊勝：認知と記憶：症例研究とイメージング研究。第7回生理学若手サマースクール。東京，2007。8。8.
  - ・ 藤井俊勝：記憶の神経基盤。第40回日本作業療法士協会全国講習会。山形，2007。10。27.
  - ・ 藤井俊勝：遂行機能障害について。高次脳機能障害者支援のためのワークショップ 第3回 －遂行機能障害へのアプローチ，東京，2007.
  - ・ 藤井俊勝：神経心理学と脳機能画像法によるヒトの高次脳機能研究。東京大学医学部基礎統合講義，東京，2008。2。8.
  - ・ Fukatsu, R, Social and Work Inclusion Challenges for Persons with TBI and Autism in Japan US-Japan Veterans TBI, Autism Healthcare Conference 2008. Washington D C, USA. 2008. July 13 -14
  - ・ 深津玲子，高次脳機能障害支援普及事業について。脳外傷後高次脳機能障害研究会。札幌。平成20年4月20日
  - ・ 深津玲子，高次脳機能障害：その症状、支援方法等について。福島高次脳機能障害リハビリテーション講習会。福島。平成20年9月21日
  - ・ 深津玲子，高次脳機能障害支援の過去・現在・未来。「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」東北ブロックシンポジウム。仙台。平成20年10月25日。
  - ・ 深津玲子，画像と神経心理学。リハビリテーション心理職研修会。国立障害者リハビリテーションセンター学院。平成20年9月17日～19日。

- ・ 深津玲子，認知障害に対する神経心理学的検査。高次脳機能障害支援事業関係職員研修会。国立障害者リハビリテーションセンター学院。平成20年7月2日～4日。
  - ・ 寺島 彰。生活復帰・介護支援の実践－ケアマネジメントを中心に－。平成20年度高次脳機能障害支援事業関連職員研修会。国立障害者リハビリテーションセンター，所沢，2008-07-04。
  - ・ 寺島 彰：モデル事例ケーススタディ 医療から福祉へ・就労支援にかかる知識。高次機能障害者支援コーディネーターのためのワークショップ，東京，2008-7-5。
  - ・ 藤井俊勝：うそをつく脳。日本学会会議主催 シンポジウム「社会脳2008」，京都，2008。8。2。
  - ・ 藤井俊勝：エピソード記憶と前脳基底部。神山神経科学特別セミナー 京都産業大学，京都，2008。11。10。
  - ・ 藤井俊勝：高次脳機能障害の基礎知識。第2回高次脳機能障害者支援コーディネーターのためのワークショップ，東京，2009。2。21。
  - ・ 山崎裕功、岩谷 力、江藤文夫、北村昭子、樋口幸治：障害者の健康支援から見たリハビリテーション体育の役割について－更生訓練所入所者の場合。第43回日本リハビリテーション医学会学術集会、東京、2006年6月1-3日（6月2日）。
  - ・ 中島 八十一，深津玲子，藤井俊勝。高次脳機能障害に対する長期的追跡調査に関する研究。第44回日本リハ医学会。神戸，2007-06-06/06-08。
  - ・ 深津玲子，藤井俊勝，中島 八十一。前交通動脈動脈瘤破裂によるくも膜下出血後遺症として重度の記憶障害を有しながら主婦として家庭復帰した例。第44回日本リハ医学会。神戸，2007-06-06/06-08。
- G. 健康危険情報 なし
- H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

学会発表



厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

分担研究報告書

高次脳機能障害者支援体制の整備のための教材作成と普及啓発方法に関する研究

分担研究者 中島 八十一 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

感覚機能系障害研究部長

研究要旨

高次脳機能障害者支援普及事業の開始に伴い、全国の地域ブロック、都道府県、および市町村における医療・福祉専門職・行政職等を対象とした研修会・講習会等の開催に応じ、教材を作成し配布した。今後も新たな質問事項を整理し、教材内容を適宜改訂し、さらなる普及啓発の方法を考えたい。

A. 研究目的

平成18年度より、高次脳機能障害者支援体制整備・普及を目的とし、全国の地域ブロック、都道府県、および市町村において、医療・福祉専門職・行政職等を対象とした研修会・講習会等が開催されている。

本研究では、それらの情報提供・収集交換の機会において、高次脳機能障害者支援モデル事業で構築された、医療・福祉の連携に基づく包括的リハビリテーションの実践的な方法論を、複数の職種に分かりやすく説明するために、適切な教材を開発し、配布を促進し、普及啓発することを目的とした。

B. 研究方法

平成18～20年度にわたり、全国の地域ブロック、都道府県、および市町村における医療・福祉専門職・行政職等を対象とした高次脳機能障害者支援研修会・講習会等の開催に応じ、教材を作成し、配布した。また、障害者自立支援法の施行に伴い、教材を改訂した。

C. 研究結果

平成18～20年度に教材（高次脳機能障害者支援の手引き）を配布した研修会・講習会件数、部数を下記に示す。配布状況詳細は添付資料を参照。

#### 外部研修会実施件数と手引き配布部数

平成18年度	37件	3,659部
平成19年度	77件	9,350部
平成20年度	66件	7,979部
合計	180件	20,988部

#### D. 考察・結論

高次脳機能障害支援普及事業の開始に伴い、全国各地で、さまざまな規模の研修会・講習会が開催されている。筆者は、都道府県ならびに支援拠点機関等の関係者、専門職員、学識経験者等で構成される連絡調整の場である地方拠点支援機関等全国連絡協議会、および各ブロック会議において、研修会・講習会の開催を促進するとともに、作成した教材の使用を提案・配布した。また、障害者自立支援法の施行に伴い、教材内容を改訂した。今後も新たな質問事項を整理し、さらなる普及啓発の方法を考えたい。

#### F. 研究発表

##### 論文発表

1. 中島八十一：認知症と高次脳機能障害  
Clinical Neuroscience 25 (2) 22  
0-221, 2007
2. 中島八十一：高次脳機能障害への支援  
地域リハビリテーション 2 (1) 2

1-24, 2007

3. 中島八十一：高次脳機能障害診断基準  
Japanese Journal of Rehabilitation  
on Medicine 44 (10) 565-568, 2007
4. 中島八十一：高次脳機能障害支援のこ  
れまでと今後 脳神経外科ジャーナル  
16 (12) 936-942, 2007
5. 中島八十一：高次脳機能障害と医療・  
福祉 日本医事新報 No.4365 53-59,  
2007
6. 今橋久美子、中島八十一：モデル事業  
で高次脳機能障害へのアプローチはこ  
う変わる。臨床リハ 16 (1) 10-16,  
2007
7. Sekiguchi H, Takeuchi S, Kadota  
H, Kohno Y, Nakajima Y Evoked  
brain potentials were changed by  
coil orientation of transcranial  
magnetic stimulation, Clinical  
Neurophysiology, Volume 119,  
Issue 6, (2008) e77
8. 中島八十一 高次脳機能障害支援の  
現状と問題点. 国リハ研紀 28 :  
1-8, 2008

##### 書籍等

1. 中島 八十一/寺島 彰(編) 高次脳機  
能障害ハンドブックー診断・評価か  
ら自立支援まで 医学書院 東京  
2006年
2. 高次脳機能障害支援コーディネート

マニュアル 高次脳機能障害支援コ  
ーディネート研究会 中央法規出版  
東京 2006年

3. 餅田亜希子、中島八十一：失語症と  
高次脳機能障害に対する社会支援体  
制、鹿島晴雄、大東祥孝、種村純編  
「よくわかる失語症セラピーと認知  
リハビリテーション」615-621、永  
井書店、大阪、2008.7月
4. 中島八十一：中枢神経（脳の解剖）  
20-21、麻痺－中枢神経麻痺、末梢  
神経麻痺124-127、筋緊張異常、異  
常姿勢反射、不随意運動131-133、  
岩谷力他編「運動器リハビリテーシ  
ョンクルズ」南江堂、東京、  
2008.8月
5. Y. Nakajima Rehabilitation  
Manual 19, Guide to Support for  
Persons with Higher Brain  
Dysfunction I, Editor T.  
Ushiyama, National  
Rehabilitation Center for  
Persons with Disabilities. Japan  
(WHO Collaborating  
Centre), December, 2006  
(刊行2008年)

学会発表

1. 中島 八十一、深津玲子、藤井俊

勝. 高次脳機能障害に対する長期的  
追跡調査に関する研究. 第44回日  
本リハ医学会. 神戸, 2007-06-  
06/06-08.

2. 深津玲子、藤井俊勝、中島 八十  
一. 前交通動脈動脈瘤破裂によるく  
も膜下出血後遺症として重度の記憶  
障害を有しながら主婦として家庭復  
帰した例. 第44回日本リハ医学会.  
神戸, 2007-06-06/06-08.

講演等

1. 中島八十一「高次脳機能障害者支援  
のための診断・評価について」岩手  
高次脳機能障害研究会 平成19年5  
月24日 盛岡
2. 中島八十一 「高次脳機能障害診断  
基準」日本リハビリテーション医学  
会学術総会 平成19年6月7日 神戸
1. 中島八十一 「高次脳機能障害の診  
断と治療」京都府高次脳機能障害支  
援医療関係者研修会 平成19年7月  
13日 京都
2. 中島八十一 「高次脳機能障害支援  
普及事業の現在」高次脳機能障害支  
援普及事業九州・沖縄ブロック連絡  
協議会 平成19年7月20日 福岡
3. 中島八十一 「高次脳機能障害の診  
断基準ガイドラインについて」静岡

- 高次脳機能障害相談支援従事者専門  
研修会 平成19年9月22日 静岡
4. 中島八十一 「高次脳機能障害者の  
支援について」 宮崎県第2回高次  
脳機能障害研修会 平成19年10月22  
日 宮崎
  5. 中島八十一 「相談支援に必要な高次  
脳機能障害の医学的知識について」  
鳥取県医療社会事業協会研修会 平  
成19年10月28日 倉吉
  6. 中島八十一 「高次脳機能障害診断  
基準および連続したケアの必要性に  
ついて」 福岡県高次脳機能障害支援  
事業 医師等医療関係者研修会 平  
成19年10月31日 福岡
  7. 中島八十一 「高次脳機能障害支援  
モデル事業から支援普及事業へ」平  
成19年度大阪府高次脳機能障害支援  
普及事業市町村保健所職員研修会  
平成19年11月7日 大阪
  8. 中島八十一 「高次脳障害支援のこ  
れまでとこれから」長野県高次脳機  
能障害研修会 平成19年11月10日  
佐久
  9. 中島八十一 「高次脳障害者への支  
援：医療から福祉へ連続したケア」  
第7回鹿児島高次脳機能障害研修会  
平成19年12月2日 鹿児島
  10. 中島八十一 「高次脳機能障害診断

基準および連続したケアの必要性に  
ついて」第1回茨城高次脳機能障害  
SW.Net講演会 平成19年12月9日  
茨城・阿見

G. 健康危険情報 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況  
なし



研修会プログラム作成、運営・指導に関する研究

分担研究者 深津 玲子 国立障害者リハビリテーションセンター病院

医療相談開発部長

研究要旨

都道府県の高次脳機能障害支援拠点機関に所属する支援コーディネーターを対象にワークショップの企画、プログラム作成、運営・指導を行った。ワークショップは、事例検討会と講義で構成した。高次脳機能障害をもつ当事者・家族から相談を受ける頻度の高い「就学支援」「就労支援」「在宅支援」について事例検討会の形式で開催し、各テーマについてグループに分かれてディスカッションを行った。また、高次脳機能障害の基礎知識および支援ネットワークの構築について講義を行った。事例検討とそれに関連した講義の組み合わせは、医療・福祉の現場で働く専門職が高次脳機能障害への理解を深めるためには重要な研修形態の一つであると考えられ、今後の継続開催を要望する声もきかれた。

A. 研究目的

高次脳機能障害支援普及事業は自立支援法のもと各自治体にて支援体制の整備が進められることとなった。全国で高次脳機能障害者の支援が円滑に行われるためには、医療・福祉の領域で高次脳機能障害について専門知識を有する人材の育成が急務である。本研究の目的は、研修会を企画・運営する地域のリーダーを育成すること、および各自治体における研修会のあり方を提示することである。

B. 研究方法

高次脳機能障害者支援コーディネーターを対象に、ワークショップを開催し、高次脳機能障害者支援に携わる専門職および支援コーディネーターを対象に、同障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」の基礎講義および相談頻度の高い生活・就労支援の事例について検討会を催し、検討内容、形式、要望についてアンケート調査を行った。また、結果を次回

の企画に反映させた。

### C. 研究結果

高次脳機能障害者支援に携わる専門職および支援コーディネーターを対象に、基礎講義および事例検討会を催した。各回のテーマと、参加者数を下記に示す。

(開催要項の詳細は添付資料参照)

ワークショップ開催日時・テーマ・参加人数

---

第1回 平成19年 3月10日	
記憶障害へのアプローチ	40名
第2回 平成19年 7月 7日	
注意障害へのアプローチ	150名
第3回 平成19年11月10日	
遂行機能障害へのアプローチ	130名
第4回 平成20年 3月 1日	
社会的行動障害へのアプローチ	140名
第1回 平成20年 7月 5日	
支援コーディネーター研修会	102名
第2回 平成21年 2月21日	
支援コーディネーター研修会	68名

---

### D. 考察・結論

18、19年度に開催した4回のワークショップで、高次脳機能障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」について、症

状・用語の正確な定義が整理された。

20年度は研修対象者を支援拠点機関に所属する支援コーディネーターと明確にし、参加者の意見や要望の反映を繰り返して、標準的プログラムの形式と内容を検討した。事例検討とそれに関連した講義の組み合わせは、医療・福祉の現場で働く専門職が高次脳機能障害への理解を深めるためには重要な研修形態の一つであると考えられる。また、今後の継続開催を要望する声もきかれ、何らかの形で機会を設ける必要がある。

### F. 研究発表

#### 論文発表

1. 深津玲子, 高次脳機能障害. Pharma Medica, 2008. 26(11): p. 21-24.
2. 深津玲子, 脳炎と脳症. 神経内科, 2008. 68(Supple. 5): p. 142-146.
3. 深津玲子, 特集: 高次脳機能障害の現状; 医療の側面から(1). リハビリテーション, 2008. 503(5月号): p. p. 18-22.
4. 深津玲子, 特集: 高次脳機能障害の現状; 医療の側面から(2). リハビリテーション, 2008. 504(6月号): p. p. 22-27.
5. 深津玲子, 藤井俊勝, 遂行機能障害の画像診断. Journal of Clinical

Rehabilitation, 2008. 17: p. 26-31.

#### 書籍等

1. 深津玲子 第4章 神経心理学的検査. 中島八十一/寺島彰 高次脳機能障害ハンドブックー診断・評価から自立支援まで 医学書院 東京 2006年

#### 学会発表

1. 深津玲子, 藤井俊勝, 中島 八十一. 前交通動脈動脈瘤破裂によるくも膜下出血後遺症として重度の記憶障害を有しながら主婦として家庭復帰した例. 第44回日本リハ医学会. 神戸, 2007-06-06/06-08.
2. 中島 八十一, 深津玲子, 藤井俊勝. 高次脳機能障害に対する長期的追跡調査に関する研究. 第44回日本リハ医学会. 神戸, 2007-06-06/06-08.

#### 講演等

1. 深津玲子. 外傷性脳損傷のリハビリテーション. 平成19年度リハビリテーション心理職研修会 (基礎). 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-05-23.

2. 深津玲子. 認知障害に対する神経心理学的検査. 平成19年度高次脳機能障害支援事業関連職員研修会. 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-07-05.
3. 深津玲子. 画像と神経心理学. 平成19年度リハビリテーション心理職研修会 (応用). 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-09-11.
4. 深津玲子. 目に見えない障害とともに生きる-高次脳機能障害・失語症について-. 東邦大学医学部看護学科 第6回市民公開講座. 東邦大学医療センター大森病院, 東京, 2007-09-29.
5. 深津玲子. 高次脳機能障害とリハビリテーション. 第一回 福井県高次脳機能障害者交流会. 福井県立病院, 福井, 2007-10-13.
6. 深津玲子. 高次脳機能障害の評価. 平成19年第2回 高次脳機能障害支援従事者研修. 新潟県精神保健福祉センター, 新潟, 2007-12-21.
7. Fukatsu, R, Social and Work Inclusion Challenges for Persons with TBI and Autism in Japan US-Japan Veterans TBI, Autism Healthcare Conference 2008. Washington D

C, USA. 2008. July 13 -14

8. 深津玲子, 高次脳機能障害支援普及事業について. 脳外傷後高次脳機能障害研究会. 札幌. 平成20年4月20日
9. 深津玲子, 高次脳機能障害: その症状、支援方法等について. 福島高次脳機能障害リハビリテーション講習会. 福島. 平成20年9月21日
10. 深津玲子, 高次脳機能障害支援の過去・現在・未来. 「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」東北ブロックシンポジウム. 仙台. 平成20年10月25日.
11. 深津玲子, 画像と神経心理学. リハビリテーション心理職研修会. 国立障害者リハビリテーションセンター学院. 平成20年9月17日～19日.
12. 深津玲子, 認知障害に対する神経心理学的検査. 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会. 国立障害者リハビリテーションセンター学院. 平成20年7月2日～4日.

G. 健康危険情報   なし

H. 知的財産権の出願・登録状況  
なし